

コミュニティ心理学と自閉児治療教育(V)

—兄弟教室の試み—

平川 忠敏*

佐藤 望**

I 日曜学級の概要

自閉児集団療育日曜学級（以下日曜学級と略す）は1976年から毎月1回第2日曜日に行われている。現在のところは表1の通りの自閉児が日曜学級に登録しており毎月約半数の自閉児が家族と一緒に参加している。鹿児島県下では約300名の自閉児をわれわれは推定しているがその半数が日曜学級に関係していることになる。これらの自閉児の大半は保健所の一歳半児検診や三歳児検診を通じて紹介されてくるケースである。日曜学級はボラン

表1 日曜学級の自閉児

年令	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	合計
男		1	11	9	13	24	14	13	17	6	6	2	3	3	3	125
女	1		2	1	2	7	3	2		3		1				22
合計	1	1	13	10	15	31	17	15	17	9	6	3	3	3	3	147

58年12月現在

ティアグループであり、主なスタッフはわれわれ心理臨床家を中心に保母、教諭、歯科医等約10名である。さらに約150名の学生がトレーナーとして参加している。学生トレーナーはスタッフの意図のもとに1対1で自閉児と接している。

日曜学級は午前中の幼児自閉児グループ、午後の年中自閉児グループ、年長自閉児グループ、親グループ、兄弟グループの合計5つのグループに対するアプローチがそれぞれ別々に同時並行の形で行われている。詳細についてはこれまでに報告してきた（佐藤他1977, 平川他1978, 平川・佐藤1981）。

自閉児の治療教育においてわれわれはコミュニティ心理学的立場をとっている。従って、自閉児に対する治療教育のみでなく自閉児を取り巻く環境へのアプローチも重視している（安藤1979, korchin, S. J. 1976, Murrell, S. A. 1973, 山本近刊）。自閉児のみに過酷な訓練を強制して社会適応をさせようとするのは片手落ちである。彼らを取り巻く環境も彼らに近づいていかねばならないと考えている。従って、われわれの治療教育の対象は次の5つにまとめられそれぞれにアプローチしている。

※鹿児島大学教養部心理学研究室

※鹿児島県立短期大学心理学研究室

1. 自閉児の治療教育
2. 親の研修
3. 兄弟教室の開催
4. キーパーソンへのコンサルテーション
5. ポピュレーションへの講演や映画会

1. 2. 3. は毎月行っており 4 は要請に応じて学校へ出かけていったりしている。5 は年に 1 回位の割で文化センターを使って一般の人々に行っている。その他、自閉児・親・兄弟の夏季療育キャンプではキーパーソンを対象にした研修講座も開催している。今回はこのなかから、自閉児の兄弟に対して行っているアプローチの内容を報告する。

Ⅱ. 兄弟教室

自閉児の治療教育において自閉児とその両親に対するアプローチは一般に行われている。兄弟はこれまで治療教育の際は「お荷物」、「附属品」としてしかみられていなかったように思う。しかし兄弟も親同様自閉児にとって最も身近かな人のひとりである。親を治療教育のなかの一環とするなら兄弟もそうすべきである。このような考えからわれわれは 1980 年から兄弟教室をはじめた。中断もあったが再度定期的に開催しはじめてからすでに 1 年近く経過し、模索のなかにもひとつの方向を見出し安定期を迎えようとしているのでここに兄弟教室のとりくみの内容を報告したい。なおここで兄弟という時は兄弟姉妹をさすが便宜上兄弟と表現する。

1. 目的

兄弟教室は自閉児を兄弟姉妹に持つ人たちの「あり方」を考えることを目的としている。われわれはある種の画一的で理想的な兄弟像を設定して、そんな人になるように兄弟を教育していこうというのではない。「まごころ肥大症」や「小さな親切大きなお世話」といったたぐいではなくごくふつうに、適切に、暖かく自閉児と接することのできる兄弟を考えている。兄弟は自閉性障害についていつかは認識するわけであるが、その時歪んだ認識をしないように正しく認識し、そしてすくすく育ってってもらいたいと考えている。積極的な人格形成の場として兄弟教室を考えている。

具体的には次の目的を掲げているが、「人間について」の授業や活動を、自閉児を含む障害児をテーマにしてやっているつもりである（林 1973）。

1. 自閉性障害の正しい理解
2. 特異な行動の捉え方、接し方の学習
3. 福祉思想の育成
4. 兄弟同士の連携

2. 対象児

討論会が主なプログラムのひとつになるので小学校1年生以上を対象としている。毎月の日曜学級には約70名の自閉児が参加するが、兄弟教室は毎月約20名で半数が定着している。最近の参加状況は表2の通りである。これに4名の学生トレーナー（以下チューターと略す）がついている。

表2 最近の兄弟教室の参加者

	小 学 校						中 学 校		合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	
58年 3月		6	3	2	6	2	1	1	21
4月	1	1	8	4	2	2		1	19
5月	8	4	7	3	2	3	2	1	30
6月	1	3	7	3	3	3	0	0	20
7月	6	2	7	4	3	2	0	0	24
8月	5	3	8	3	3	1	0	1	24
9月	2	3	5	2	1	3	0	0	16
10月	3	3	7	4	3	2	0	0	22
11月	1	2	4	2	0	2	0	0	11
合計	27	27	56	27	23	20	3	4	187

3. 方法

表3の年間計画に基づいて兄弟教室が開催されている。春の兄弟キャンプを除く他はすべて自閉児の療育プログラムと同時並行で行われている。あるいは自閉児と一緒に行うプログラムである。兄弟教室は決して付属品ではなく全体の重要な一部分として参加している。なお、兄弟教室への出欠の有無は自閉児の場合と同様にこちらから案内した往復葉書で事前に申込むようになっている。

次の4項目に分けて具体的実践内容を述べる。

1. 毎月の定例兄弟教室
2. 運動会、クリスマスパーティー、遠足
3. 夏季キャンプ
4. 春季キャンプ

表3 兄弟教室の年間プログラム

4月	定例兄弟教室
5月	運動会（自閉児合同）
6月	定例兄弟教室
7月	〃
8月	自閉児と合同の夏季キャンプ（3泊4日）
9月	定例兄弟教室
10月	〃
11月	〃
12月	クリスマスパーティ（自閉児合同）
1月	定期的兄弟教室
2月	〃
3月	兄弟キャンプ（2泊3日）・遠足（合同）

(1) 毎月の定例兄弟教室

主な時間割はホームルームと学習と体育（レクリエーション）の3時限からなっている。

1限のホームルームでその日の日程のオリエンテーション、新参加者の自己紹介などを
する。2限の学習の時間は、討論会、講義、作文、新聞づくり、障害児関係の読書とその感

表4 兄弟教室のプログラム(58年9月)

	プログラム	内 容	備 考
13:20	1限 ホームルーム	・ 始めの歌「もみじ」「小さい秋見つけた」 ・ 友だち紹介(はじめて来た人)	歌詞カード
14:05	Tutor: 田中	・ 今日の兄弟教室の話し合い	
	休 み		
14:10	2限 学習活動	・ 作文「夏休みの思い出」 ・ キャンプを中心に楽しかったこと	えんびつ 作文用紙
14:50	Tutor: 本田	・ おもしろかったこと・友だち調査	
	休 み		
14:55	3限 体育活動	・ フットベースボール 雨天の場合 「ペーパークラフト」	ボール
15:30	Tutor: 松村		

想を話し合う会などでその月に応じた内容を取り入れている。最後の3限はレクレーションをして来月の予定を決めて終わる。表4は9月のプログラムである。

(2) 運動会, クリスマスパティー, 遠足

毎年5月は運動会, 12月はクリスマスパーティー, 3月は遠足(野外療育)を日曜学級行事として行っている。とくに前の2つの行事は定例日曜学級で行っている療育活動の発表会として位置づけており, 兄弟も日頃の成果を発揮する。各行事では自閉児とペアになって行う内容が組まれている。クリスマスパーティーでは新聞をつくって日頃の活動の報告もしている。これらの活動には兄弟も自閉児と同等の資格で並列的に参加している。

(3) 夏季療育キャンプ

毎年8月の日曜学級は霧島高原の青年の家で3泊4日の自閉児療育キャンプを実施している。毎年約60名の自閉児を中心に, その両親, 兄弟, スタッフ, トレーナー, 研修生等約300名の構成である。学齢以上の兄弟は兄弟村をつくりテント生活をする。今夏は小学1年生から中学2年生までの兄11名, 姉10名, 弟3名, 計24名が参加し, チューター4名が指導に当たった。プログラムは表5の通りである。開会式では自閉児, 親, トレーナーなどのグループ代表と同じように兄弟グループの代表が決意表明を述べ, 閉会式でも同様に成果を報告した。

プログラムは兄弟独自のものと自閉児合同で行うものとが組み合わされている。例えば, 創作活動で独自にみこしをつくり, それを全体の納涼大会で披露するとか, キャンプファイヤーでは自分たちで演出した寸劇をみんなに披露するなどである。また心理劇も試みた。

なおこの兄弟教室とは別に夏のキャンプ期間中, 乳幼児用の保育室を設置し, 保育者を配置して, 母親が研修を受けやすいようにしている。

(4) 春季兄弟キャンプ

他のプログラムは自閉児の治療教育と同時並行であるが, この春季キャンプは兄弟だけで行う。それだけに初期の目的を最も達成できたように思う。夏季療育キャンプも, 春季兄弟キャンプも, 目的, 実施要領の詳細な内容からなる小冊子を参加者一人一人に配布するが, これをもとに概要を紹介していく。

目的: このキャンプは日曜学級に参加している自閉児の兄弟姉妹が数日起居を共にすることにより相互理解と助け合いの友情を形成するとともに, 自閉性障害について正しい理解を深め, 障害を持つ兄弟を援助していく福祉の精神を培うことを目的とします。

期日: 2泊3日(春休み期間中)

場所: 鹿児島市立少年自然の家

参加者: 心理臨床家2名, チューター(学生)13名, 兄弟姉妹は学齢以上の小学2年生か

表 5 昭和 58 年度 「日曜学級」夏季療育キャンププログラム

8 月 2 日 (火)				8 月 3 日 (水)				8 月 4 日 (木)				8 月 5 日 (金)			
年少	年長	兄弟	親	研修生	年少	年長	兄弟	親	研修生	年少	年長	兄弟	親	研修生	
現地集合				朝のつどい・清掃 (各 GL)				朝のつどい・清掃 (各 GL)				朝のつどい・清掃 (各 GL)			
				朝食	登山準備	登山	登山	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	朝食	起床
Staff・Tr 施設オリエンテーション				登山準備				炊事・夕食づくり (女子 GL)				荷物整理・準備			
				登山	登山	登山	登山	夕食	夕食	夕食	夕食	親子対面式	親子対面式	親子対面式	起床
受付・昼食・歯科検診 (平原・樺山・田中・P・D・M・D)				講義 (梅津)				水泳 (松村)				運動会 (樺山)			
				講義	講義	講義	講義	水泳	水泳	水泳	水泳	運動会	運動会	運動会	起床
グループ編成・開会式 (平原)				屋食 (弁当)				水泳 (江口)				昼食・親-Tr ミーティング			
				屋食	屋食	屋食	屋食	水泳	水泳	水泳	水泳	昼食	昼食	昼食	起床
野営準備 (荒武)				講義 (佐藤)				ウオークラリー (本田)				閉会式 (平原)			
				講義	講義	講義	講義	ウオーク	ウオーク	ウオーク	ウオーク	閉会式	閉会式	閉会式	起床
集団遊戯 (平原)				休息				グループ別活動				14:00 現地解散 (お別れのアーチ)			
				休息	休息	休息	休息	グループ	グループ	グループ	グループ	14:00	14:00	14:00	起床
納涼大会 (平原)				バラエティ・ショー (豊留)				夕食				14:30 バス出発			
				バラエティ	バラエティ	バラエティ	バラエティ	夕食	夕食	夕食	夕食	14:30	14:30	14:30	起床
座談会 (豊留)				夕食				入浴				16:30 Tr ミーティング			
				夕食	夕食	夕食	夕食	入浴	入浴	入浴	入浴	16:30	16:30	16:30	起床
就寝				就寝				就寝				18:00 反省会			
				就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	18:00	18:00	18:00	起床
就寝				就寝				就寝				18:00 県短大 学生会館食堂			
				就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	18:00	18:00	18:00	起床
就寝				就寝				就寝				19:00			
				就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	19:00	19:00	19:00	起床
就寝				就寝				就寝				20:00			
				就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	20:00	20:00	20:00	起床
就寝				就寝				就寝				21:00			
				就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	21:00	21:00	21:00	起床
就寝				就寝				就寝				22:00			
				就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	就寝	22:00	22:00	22:00	起床

年少組：りす・うさぎ・さき・さるグループ 年長組：ぼんだ・ぞう・きりんグループ

ら中学2年生までの21名で、兄9名、姉9名、弟2名、いとこ（女）1名であった。

参加費：7000円

プログラム：表6参照

表6 兄弟教室春季キャンプのプログラム

	第 1 日 目	第 2 日 目	第 3 日 目
	3 月 29日(火)	3 月 30日(水)	3 月 31日(木)
6:30		起床・朝の身じたく	起床・朝の身じたく
7:00		朝のつどい(山崎)	朝のつどい(山崎)
8:00		清 掃	清 掃
9:00		朝 食	朝 食
10:00		自閉症について(佐藤) 講 義	登 山
11:00	現地集合・受付	兄弟の役割について(平川) 討論会	牟礼ヶ丘 (清水・田中)
12:00	入 所 式 交 流 会(瀬戸山)		
	昼 食	昼 食	昼 食
13:00	オリエンテーション キャンプ趣旨説明	創 作 活 動 風づくり(岩崎・永野)	調 査・作 文
14:00	(佐藤・平川)		閉 会 式
15:00	グループ別活動 アスレチック等体力づくり (大村・中村)	グループ別活動 オリエンテーリング (大村・中村)	退所式 兄弟現地解散 15:39発 バス乗車 スタッフ・ミーティング
16:00	夕べのつどい(山崎)	夕べのつどい(山崎)	
17:00	夕 食・入 浴	夕 食・入 浴	
18:00	映 画 観 賞 (平川) 映画についての グループ別の話し合い	キャンドルサービス (佐藤・八坂)	
19:00		各グループ別討議(各GL)	
20:00	スタッフ・ミーティング	スタッフ・ミーティング	
21:00			
22:00			

主要プログラムの内容について紹介していく。まず第1日目の映画鑑賞では知恵遅れの弟を持つ小学生の姉の話して「せっちゃん」という映画を観た。そのあと年齢の近い人ごとに3グループつくり感想を話し合った。第2日目は「自閉児概論」の講義をした。つつい難度が高くなりがちで小中学生への講義はなかなかむずかしいが、兄弟達はいかにも勉強をしているという感想を持ったと話していた。次は「兄弟の役割り」についての討論会。テーマは「兄弟が自閉児で困ったこと、よかったこと」で、黒板を使っのKJ法でやった。詳細は後述するが困ったことは実に多くのことがあった。自閉児がいてよかった

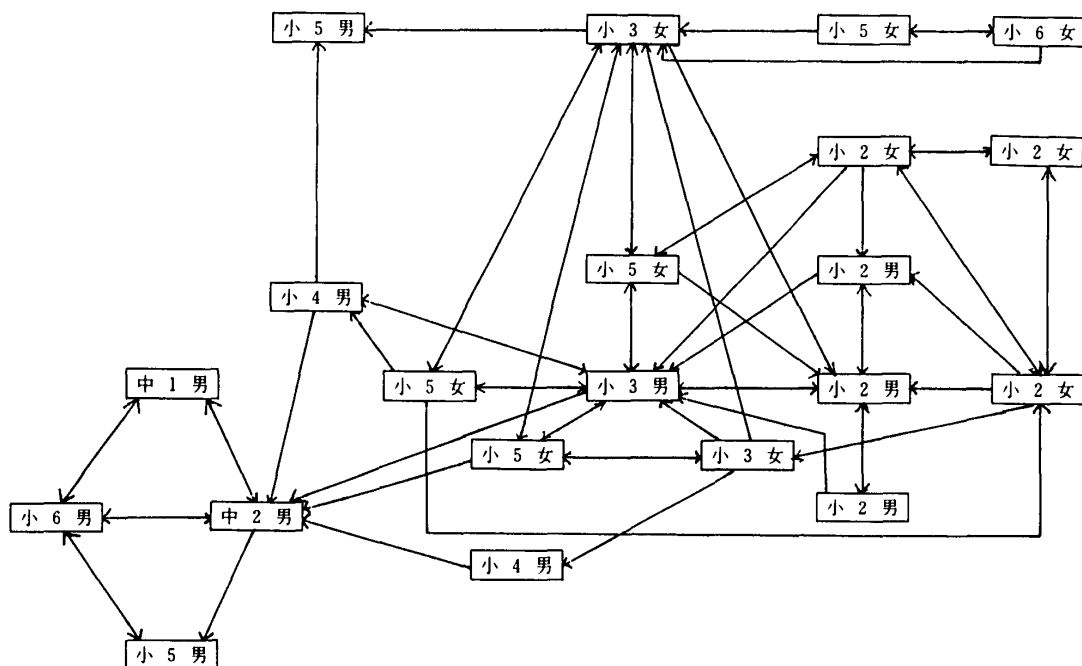
ことは「夏のキャンプや春のキャンプに参加できること」が断然多く、続いて「自分の学校以外にも多くの友人ができたこと」であった。ここで出てきた問題はさらに夜のグループ別討論会でも話し合われた。その他アスレチックや創作活動などもふんだんに取り入れた内容であった。なお、更に、このキャンプを経験することによる意識的变化を調査するため、キャンプの直前、直後に心理テストを試み、自閉児への態度や意識および兄弟間の友だち関係などを調査した。それらの結果を以下に簡単に述べる。

4. キャンプでのテスト結果

評価としてソシオメトリー、評定法による人物評価、行動評価の三種のテストを行った。開会式直後のテストでは人物評価を、閉会式直前のテストでは人物評価、行動評価、ソシオメトリー、自閉児への手紙が行われた。参加者は小学2年生から中学2年生の合計21名である。但し兄1名は最後のテストを受ける前に帰ったので最後の資料は20名分である。

(1) ソシオメトリー

図1がソシオメトリーの結果である。中学2年生の男子をスターとする小学5年以上の男子グループと小学3年生の男子をスターとする小学低学年、中学年のグループに分けられ、小学5年生、6年生の女子2人組みが孤立している。



(2) 行動評価

(3)で述べる人物評価がいわば意識レベルの調査なので行動レベルを捉えようとして行った。日頃自閉児とどういう行動をしているかを調べたものである。質問内容は①. テレビを一緒によくみるか。②. チャンネル争いの時どうするか。③. よく一緒に遊ぶか。④. 勉強をよく教えるか。⑤. 外出の時一緒に歩くか。⑥. 食事の時おかずをわけてやることがあるか。⑦. けんかをよくするか。⑧. けんかしてもすぐ仲直りするか。⑨. 自閉児が友だちにいじめられているとすぐ助けにいくか。⑩. おもちゃのとりあいになった時ゆずるか。という10項目であった。得点の範囲は0点から10点であり、高いほど仲良くやっていることになる。4点：1名、6点：2名、7点：8名、8点：2名、9点：5名、10点：2名の合計20名であった。自閉性障害の重篤度、兄弟間の年齢差、自閉児と兄弟の性差などにより得点に影響がでると思われるが一般に高い得点を示していた。

(3) 評定法による人物評価

人格を形容する形容詞34対について5段階評定を行った。2（キャンプの前と後）×3（自分について、自閉児について、自閉児は自分をこのようにみている）×2（現実像と理想像）の要因計画で行った。結果の統計的処理は今後行うことにして、ここでは1番目の要因と2番目の要因と3番目の要因の現実像についてのみ簡単にみてみたい。

結果1. 得点は1点から5点までが記録される。肯定的に捉えると高得点に、否定的に捉えると低得点となる。キャンプの前と後で評価点が上昇した人は「自分に関して」13人、「自閉児に関して」15人、「自閉児からみた自分に関して」11人であった。しかし得点の平均を比較すると小さな上昇であり有意な上昇はみられていない。

結果2. キャンプの前後で高得点、低得点の項目をそれぞれ5項目ずつとりだしたのが表7である。「自分に関して」では、キャンプ前は「心が広く、健康で、ゆかいで、清潔で、親切」であるが「おちつきがなく、うるさくて、のろまで、気が短く、だらしない」と評価している。キャンプ後の評定では、高得点の部分は変わらないが低得点の方に「すなおでない、話しにくい」が「おちつきのない、だらしない」と変わっている。「自閉児に関して」では、キャンプ前は「健康で、好きで、おもしろく、陽気で、楽しい」とみており、他方「落ち着きがなく、うるさく、だらしく、言うことを聞かない」と評価している。キャンプ後は低得点の方が「責任感がなく、うるさくて、遅くて、だらしく、わがまま」と変わってきている。これらは自閉児の一般的特徴と共通したところもあり良きにつけ、悪しきにつけ適切に評価しているとみてよい。

「自閉児が自分をどうみているか」については自分自身の評価とあまり変わらない。

全体的には、キャンプの前と後では評価はそう変わっていない。自分の評価に比べ、自閉児を高く評価していることに気がつく。

表7 キャンプにおける高得点，低得点の項目

		自 分	自閉児	自閉からみた自分
キ ャ ン プ 前	高 ス コ ア	心の広い 3.90	健 康 4.40	健 康 4.05
		健 康 3.85	好 き 4.25	楽しい 3.90
		ゆかい 3.85	面白い 4.25	暖 い 3.75
		清 潔 3.85	陽 気 4.05	面白い 3.65
		親 切 3.80	暖 い 4.05	好きな 3.55
	低 ス コ ア	落ついた 2.40	落ついた 2.10	静かな 2.40
		静かな 2.70	静かな 2.30	責任ある 2.65
		速 い 2.75	きちんと した	はやい 2.65
		気 長 2.80	すなお 2.50	熱 心 2.65
		きちんと した	はやい 2.65	すなお 2.75
キ ャ ン プ 後	高 ス コ ア	健 康 3.95	好 き 4.40	楽しい 4.26
		楽しい 3.90	健 康 4.25	ゆかい 4.20
		ゆかい 3.85	面白い 4.25	面白い 3.90
		親 切 3.80	暖かい 4.15	幸 福 3.89
		清 潔 3.75	ゆかい 4.00	健 康 3.80
	低 ス コ ア	面白い 3.75		
		すなお 2.75	責任感 2.70	落ついた 2.70
		速 い 2.85	静 か 2.75	用心深い 2.89
		静 か 2.95	速 い 2.85	すなお 2.90
		気 長 3.00	きちんと した	敏 感 2.90
		話し易い 3.05	すなお 3.10	速 い 2.95

(4) 自閉児への手紙

キャンプの最後に自閉児へ手紙を書いた。そのなかから3人の手紙をそのまま引用しておく。

(小学生の兄から妹の自閉児へ)

Aちゃんこんにちは、ぼくは今2はく3日のキャンプにきています。Aちゃんは元気ですか。ぼくはアスレチックをしたり、えいがをみたり、オリエンテーリングなどを

しました。Aちゃんはぼくがいない間何をしていましたか。ぼくはこんどの日曜日、テレビに出ます。いっしょに見ようね。今日帰って来ます。まってね。それからストレッチおもしろかったよ。火水木よう日はテレビを見れませんでした。だから家に早く帰るからね。それからAちゃんのことをみんなに発表したよ。だからみんなもたすけてくれると思うよ。それではさようなら。

(小学生の姉から弟の自閉児へ)

Bちゃんこんにちは。私は今兄弟キャンプで教わったことを胸におうちに帰るからね。これまでのお姉ちゃんとはちがうんだよ。もっとお姉さんになって帰ってくるからね。今まではBちゃんがお姉ちゃんの部屋に来るとおい出したけれど、これからはもっとたくさんお散歩にいったげるし、勉強はそのあとにするからこれからもたくさん遊んだりしようね。バイバイ。

(小学生の兄から弟の自閉児へ)

C君、ぼくは今自然の家にあります。ところでC君は元気ですか。ぼくは自然の家でのねる所は二段ベッドの下のはしっこにねました。友達にD君、E君、F君です。そして立体三角風を作り、空に飛ばしたらよくとびました。その風を家にもって帰ります。それからオリエンテーリングでは1着になりました。そして先生の話をよくメモして帰ってきます。自然の家はとてもおもしろいでした。さようなら。

5. 兄弟をとりまく諸問題

天真爛漫に見える兄弟たちも多くの問題を抱えていることが、兄弟教室での話し合いを通じて次第に明らかになってきた。それらを家庭内の問題、家庭外の問題、将来の問題に大きく3つに分けてみたい。

(1) 家庭内の問題

自閉児がいる家庭であるが故に生じるいろいろな問題を兄弟も抱えこんでいる。親の関心は自閉児に多く向けられ兄弟へは少なくなる。あるいは逆に「お前だけが頼りだ」ということで年齢不相応の随分重い荷物を背負わされることなどがある。自閉児があまりに奔放に振る舞うので兄弟は圧倒されてしまう。TVのチャンネル権も奪われてしまう。何とか自分の意を通そうとすると自閉児は例のパニックをおこして対抗する。せっかくやった宿題ばかりか教科書やノートまで破られた経験をした兄弟も多い。このような問題が話し合いのなかで次々とあがってくる。

親が兄弟に自閉性障害をどのように伝えるかが兄弟の対応に大きな影響を及ぼしているようである。「病気である」、「まだ赤ん坊である」、「個性である」、「障害である」等々い

ろんな伝え方がある。病気とは少し違う、年齢不相応の赤ん坊もおかしい、個性と捉えらるゝと援助が不要になる。「周囲からの援助を必要としている障害である」という伝え方が一番よいのではないかと思っている。

親の態度にもいろいろある。この兄弟だけには親と同じような苦勞をさせたくないといつて学校も別のところへ通わす親。障害児が兄弟にゐると世間の風当りは冷たいからしっかりしろと精神教育する親。親なきあとを一人の兄がみていくのは可愛相だからと、もう一人子どもを生む親。あるいは第一子が障害児であつたために次の子を生まない親。いろいろなことを考えながら親自身も発達していくが、兄弟も子どもなりに発達していってもらいたいと思っている。兄弟の態度に大きな影響を及ぼすのは親の態度が最も大きいと思われる。

(2) 家庭外の問題

家庭内の問題が、「親が兄弟に自閉性障害をどう伝えるか」にあるのと同様に、家庭外の問題は「兄弟が自分を取りまく人に自閉性障害をどう伝えるか」に集約できる。

自閉児を持つ兄弟が直面する最大のクライシスは「同じ学校に自閉の兄弟が入学してきた時に生じる級友との関係」である。級友から「君の弟（妹）は馬鹿だ」といじめられる。「馬鹿ではない自閉児だ」「自閉児とは何だ」「心の病気だ」などとやりとりが続く。自分でもよく理解することができないのに同級の小学生に自閉児を理解させるのはむずかしい。まして普通学級に在籍している自閉児について級友に説明するのはなお困難な様子である。何らかの能力を示すことのできる自閉児を持つ兄弟は、自閉児に「これを読んでみろ」「これを計算してみろ」と級友の前でデモンストレーションさせて「ほらみる馬鹿じゃない」と反論したりする。中学生では自閉児が兄弟にゐるというだけで喧嘩をしている。

級友が自閉児に次第に慣れ、自閉児自身がよく見えてくるにつれてこのような問題は消失していくが、それにしても結構時間がかかる。ある中学生の兄は自閉の弟が同じ中学に入学してくる際に悩み、「また小学校の時のあの地獄の苦しみが始まるのか」と思ったそうである。

また、友人を家に連れてこないということもある。心臓病の弟のことは友人に話せるが自閉児の弟のことは話せないということもある。以上の問題は統合教育などで、普通児に障害児のことをどのように伝えていくかという問題と共通している。なかなか妙案がなく次第にわかってもらうしかない。今のところはいろいろな問題のなかにある差別の問題をとりあげたり、社会問題にまで発展させたりしながら一緒に考えていく姿勢をとっている。

(3) 将来の問題

小学5年生以上の兄弟になると親なきあとの問題も話題になる。「大きな牧場をかって一緒にやっていく」といった内容が多い。「兄弟に障害児がゐると結婚もむずかしくなる

から何か技術を身につけて……」という話しをする兄弟もいる。自分の将来展望のなかに自閉児をどのように位置づけるかという問題は成長するにしたがい深刻な問題となる。われわれは今のところ、兄弟のその時その考えを大事にするという接し方をしている。

6. まとめ

自閉児を持つ兄弟に対するアプローチをいくつかに分けてまとめてきた。われわれは単に「親切がうりももの兄弟」になってもらいたいと考えているのではない。障害を正しく捉え適切に接することのできる兄弟を考えている。兄弟は次第に変わっていけばよいのであって、何も早くから重荷を背負う必要はない。兄弟に自閉児がいると自覚する時、歪んだ理解でないようにと思っている。

これまで兄弟教室をやってきて感じることは、(1)親が兄弟に自閉性障害をどう伝えるか。(2)兄弟が周囲の人に自閉性障害をどう伝えるか、の2点に集約されるように思う。どのように伝え、わかってもらうかということが一貫しての問題である。

なお自閉児を持った母親がかいた絵本「ボッラはすごくごきげん」「ごきげんボッラはなぞ人間」は低学年用教材としてすぐれている。「私たちのトビアス」「大きくなったトビアス」はダウン症の兄弟のかいた絵本でこれもいい教材になる。その他に障害を負った子どもを知る絵本のシリーズや心身障害者をもつ兄弟姉妹のこえなど兄弟教室での教材に適した低学年用の本を参考文献として巻末にあげた。統合教育などでも参考になると思われる。

絵本のなかの文章を引用して終わりとしたい。

「もしかすると障害のある子は、かしこい人たちがなにかを考えるためにいてくれるかもね」。

引 用 文 献

- 安藤延男編 1979 コミュニティ心理学への道 新曜社
- 林 竹二 1973 授業人間について 国土社
- 平川忠敏他 1978 コミュニティ心理学と自閉児治療教育(Ⅱ) 鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報第7報, 17-43。
- 平川忠敏・佐藤望 1980 コミュニティ心理学と自閉児治療教育(Ⅲ) 鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報第9号, 9-24。
- Korchin, S. J. 1976 Modern Clinical Psychology — Principles of Intervention in the Clinic and Community —, Basic Books Inc. New York (村瀬孝雄監訳 1980 現代臨床心理学—クリニックとコミュニティにおける介入の原理—弘文堂)

Murrell, S. A. 1973 Community Psychology and Social Systems : A Conceptual Framework and Intervention Guide. Human Science Press (安藤延男監訳 1977 コミュニティ心理学 新曜社)

佐藤 望他1977 コミュニティ心理学と自閉児治療教育 鹿児島県立短期大学地域研究所研究年報 第6報, 9-34。

山本和郎編著 近刊 コミュニティ心理学の実際 新曜社

参 考 文 献 (兄弟教室用教材)

ポッラはすごくごきげんだービルとポッラのお話ー 偕成社

ごきげんポッラはなぞ人間ービルとポッラのお話ー 偕成社

わたしたちのトビアス 偕成社

わたしたちのトビアス大きくなる 偕成社

だれもしらない (灰谷健次郎・長谷川集平) あかね書房

ともに生きるー心身障害者をもつ兄弟姉妹のこえー 日本放送出版協会

どこがちがうマリア 偕成社

ぼく 耳がきこえないんだ 偕成社

車いすのレイチュル 偕成社